



令和3年度全国統一防火標語
「おうち時間 家族で点検 火の始末」

津波防災の日について

平成23年に発生した東日本大震災では、東北地方の太平洋沿岸を襲った津波によって多くの尊い命が犠牲になりました。この災害を受けて、悲劇を繰り返さないため、津波から国民の生命を守ることを目的とした「津波対策の推進に関する法律」が制定され、11月5日が「津波防災の日」と定められました。

11月5日というのは、江戸時代（1854年）に中部地方から九州地方の太平洋沿岸に大きな津波被害をもたらした、「稲むらの火」のモデルにもなった安政南海地震の発生した日でもあります。

今年度の総合防災訓練は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止となりました。津波防災の日を一つのきっかけとして、ご家族や身近な人たちで、地震・津波への防災対策や災害時について話合っておきましょう。

秋季全国火災予防運動の実施について



毎年、11月9日から11月15日までの1週間を「秋季全国火災予防週間」と定め、全国で火災への注意が呼びかけられています。これからの季節は、空気が乾燥して火災の発生しやすい気象状況が続きます。火の取り扱いには十分注意し、火災を起こさないように努めてください。

11月9日は「119番の日」

消防庁では、消防に対する正しい理解と認識を深め、防災意識の高揚、防災体制の確立を目的として11月9日を「119番の日」としています。

「火災や救急・救助などの緊急時には、119番による通報をお願いします。」

- ▶ 固定電話からの119番通報について
消防署の位置情報システムによって通報場所が特定しやすく迅速に出動することができます。
- ▶ 携帯電話からの119番通報について
通報場所によっては、今治市や尾道市の消防署に繋がる場合がありますが、上島町消防署へ転送してもらえますので、電話を切らずに待ってください。

119番通報のポイント

- 1 通報した理由を伝える
最初に「火災」か「救急」なのか伝えて下さい。
- 2 場所を伝える
地区名と番地を伝えて下さい。番地や場所がわからない場合は、目標物などから伝えて下さい。
- 3 状況を伝える
火災や救急の状況（何がどうした？誰がどうなった？など）を伝えて下さい。
- 4 自分の名前（通報者名）と連絡先を伝える
状況などの再確認が必要な場合に、消防署から連絡をします。
※現場が確認できたら署員は出動していますので、落ち着いて③、④について説明してください。

令和3年9月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R3累計
火災	0	0	0	1	0	1	2
救急	17	2	8	1	0	28	302

(令和3年9月30日現在)

上島町消防署・消防本部 ☎77-4118



(1) イノシシの行動特性

イノシシは警戒心が強く臆病な生き物です。本来、昼間に行動する動物ですが、人間との遭遇を避けて夜間に行動します。昼間、身を隠す「ひそみ場」が人間の生活圏の近くにあり、「学習」により「人なれ」が生じ、だんだん行動が大胆になるといわれています。しかし、行動は常に身を隠せる場所を選んで移動します（けもの道）。

(2) イノシシはなぜ人家近くや畑に出没するのか

鳥獣被害は、畑や集落を「えさ場」と学習することから始まるといわれています。鳥はイノシシの生息する場所と人家や畑の距離が近く、「えさ場」「人なれ」の学習が進みやすい立地にあります。畑や人家の近くにやってくる個体は、そこが「安全な場所」「えさ場」と「学習」しているからです。しかし、「えさ場」の学習は、最初は簡単にえさが得られることから始まります。無防備な畑や腐敗果実の捨て場などから「農作物」「えさ」「安全」と学習することが「え付け」の原因となります。

(3) イノシシ対策のポイント

- ① 集落内に「えさ場」を作らない。
集落内に、イノシシの「えさ場」を作らない（果物、イモ類等の残渣の放置、やぶ等への廃棄、放任教園の果実や柵の未設置による栽培）。
- ② 「ひそみ場」の解消。
ひそみ場となる耕作放棄地や植え込みの放置等による茂みを作らな



▲ 圃地外部の見通し確保と柵からの距離

③ 正しい防護柵の設置による侵入抑制

林野部沿いに集落を囲んで柵をすることが効果的であるが、設置経費が大きいため、現状の対策は個々の畑の囲い柵となる。電気柵は痛みを与える点から有効であるが、雑草等の漏れ防止に手間がかかる。鉄柵による囲いの注意点として、地面に隙間を作らないこと、鼻を突っ込んでも果実に届かない距離に柵を設置する、侵入されなくても繰り返し補修を行うことが重要です。柵の外からの被害は、「柵がある」「えさが食べられる」と学習することで、柵を突破されやすくなります。

④ 捕獲や行政支援の活用

農地や集落を徘徊するイノシシは学習が進んでいると考えられ、捕獲による駆除が有効です。また、地域の生息密度の増加は、えさを招き農作物被害の増加につながるため、捕獲による密度低下は必要と考えます（柵の新規設置の補助事業や捕獲に関するご相談は上島町産業振興課または愛媛県今治支局地域農業育成室まで）。



▲ 潜り込み防止（孟宗竹の設置）

